



櫛紅葉 (はぜもみじ)

【学校教育目標】

ふるさと中原を担う

志をもった生徒の育成

～自律と協働の学校づくりを通して～

発行：令和4年12月20日（火） （文責） 校長 田中 克三

※今号から一部フォントを変えました。

身近なところから始めよう

～人権週間：人権放送・人権集会～

12月10日は「世界人権デー」。本校でも12月5日（月）から9日（金）を人権週間と位置づけ、各クラスから実行委員を募り、人権啓発に向けた各種取組を行いました。

6日（火）から8日（木）の3日間は、朝読書の時間を利用して、実行委員が人権放送を行いました。中学生人権作文コンテストの入賞作品等の朗読でしたが、どれも身近な人からかけられた「ことば」がその人の心を動かしていく内容となっていました。

最終日の9日（金）は、リモートによる人権集会を行い、「人権標語」の優秀作品の発表や「中原中学校いじめ撲滅宣言」の唱和などが行われました。



【人権放送当日の実行委員 早朝の放送室にて】



【教室で「私の行動宣言」を考える生徒】



【人権集会は各教室をつなぎリモートで】



【いじめ撲滅宣言を読み上げる実行委員】

集会の終盤、私からは、「人は生きていればこそ、いろんなことが心に引っかかって、元気をなくしてしまうことはあります。そんな時、身近な人からのちょっとした温かい一言が、落ち込んでいる人、悩んでいる人、生き辛さに苦しんでいる人の心にしみて、エネルギーになることがあるかもしれません。仲がいいとかそれほどでもないとか、小学校の時がどうだったとか、そういうものも飛び越えて寄り添うことができれば、こんなに素敵なことはないし、どれだけでも伸びることも幅を広げることもできる中学生にとって、大きな成長につながると思うので、「ことば」を意識して身近なところから始めよう」と有名な『ひとつのことば』という詩を紹介し、呼びかけを行いました。

【人権標語 最優秀賞作品】

- | | |
|------------------|---------------|
| 「見て見ぬふり、自分を裏切る仲間 | 「パキッ」となった心の音」 |
| | 1年2組 田中 信伍 |
| 「いじめとは 一生残る 深い傷」 | 2年2組 八谷 美優 |
| 「確かめて 君の発言 もう一度」 | 3年生徒作品 |

『ひとつのことば』

- | | |
|----------|--------|
| ひとつのことばで | けんかして |
| ひとつのことばで | なかなかおり |
| ひとつのことばで | 頭が下がり |
| ひとつのことばで | 心が痛む |
| ひとつのことばで | 楽しく笑い |
| ひとつのことばで | 泣かされる |
| ひとつのことばは | それぞれに |
| ひとつのこころを | もっている |
| きれいなことばは | きれいな心 |
| やさしいことばは | やさしい心 |
| ひとつのことばを | 大切に |
| ひとつのことばを | 美しく |

自己を見つめ、相手を意識

～12.15 1年生マナー検定～

12月15日（木）の午後、1年生のキャリア教育の一環で、恒例の「マナー検定」を実施しました。

1年生を各クラス6グループに分け、校長室を会場に集団面接形式の検定を実施。部屋の出入りの仕方や言葉遣い、礼をするときの身体の角度など事前に学習した礼節マナーを実際に披露しました。

普段、まだまだ「あどけなさ」が残る1年生ですが、この日ばかり（？）は、私が投げかけた2つの質問

- ・あなたが友人と接するとき心がけていること
- ・入学してから、自分が成長したと思うところ

に対して、一人一人しっかりと自分の考えを述べることができました。

「自分のことだけではなく、相手の気持ちを尊重して接していきたい」、「嫌な思いをした経験を、これからの自分の成長に生かしていきたい」…自分の言葉で語るその姿は伸びた背筋以上に私の心に届きました。



【緊張感が伝わってくるマナー検定の様子】

自分を相手を大切にする

～2年生 性教育講話～

学校開放デーとなった12月16日（金）、2年生では授業参観の枠で、産婦人科医の山田孝之先生をお招きして「性教育講演会」を実施しました。

男子と女子の2次性徴や女性・男性ホルモンの話からスタートした講演では、性をめぐる様々な問題（多様な性、妊娠、性感染症、子宮頸癌、デートDVなど）について実例やデータを交えて詳しく教えていただきました。

当日は保護者も11名参加され、山田先生が特に強調された「性感染症」と「子宮頸癌ワクチン」の場面では、前のめりになるかの如く耳を傾けていらっしゃいました。

【生徒の感想から】

妊娠のことだけでなく、性感染症が危険だということが分かりました。時期を間違えると、女性の子宮や体調にも害が及ぶと知り、これからは生かしていきたい。

望まない妊娠の恐ろしさを考えさせられた。性感染症や子宮の病気などについてもしっかり学ぶことができたので、予防接種のことなど親に相談してみようと思う。月経についても、もっと認知される世の中になって欲しいと思った。

自分は今まで簡単に妊娠することができるものと思っていた。妊娠するときの男性側の責任の重さを感じた。お互いに嫌にならないように相手の気持ちを考えていけないうことが分かった。今日学習したことをしっかり覚えておきたい。

折々の魚たち⑥ オヤニラミ

今回は久しぶりに地元ならではの魚：「オヤニラミ」の紹介です。自然分布している地域は中国地方と四国、九州の一部に限られており、魚に詳しい本校2年生の話によると、この辺りでは吉野ヶ里町を流れる田手川には生息していますが、寒水川には残念ながらいないようです。岸辺の植物が護岸工事などでなくなると真っ先に姿を消してしまうので、絶滅危惧種IB類に指定されています。

オヤニラミの外見上の特徴は、エラブタの後端にある目玉のような模様で「眼状紋」(がんじょうもん)といい、攻撃してくる敵を脅かすため又は急所への攻撃を回避するためと考えられています。

オヤニラミという名前は、諸説ありますが、天敵から「親がにらみを効かせて」卵や稚魚を守る生態が由来という説が最も有力です。これからの年末・年始自由な時間が増えますが、様々な誘惑という「天敵」を追い払うために、私たち大人がにらみを効かせて参りましょうかねえ。